



百舌鳥八幡宮の初詣風景（昭和初期）

西高野街道と

〜地域を歩き・地域を学ぼう〜

百舌鳥 探訪マップ



西高野街道筋（本通寺付近）

西高野街道の歴史

高野街道について

平安時代の初め、弘仁7年(816年)に、弘法大師として知られる真言宗の開祖・空海は高野山に真言密教の道場を開き、幾世の時を経て平成27年(2015年)で開創1200年を迎えました。そんな高野山に至る参詣道の一つが高野街道です。長い歴史の中で、多くの人々が弘法大師や高野山へ思いを馳せながら街道を歩いたことでしょう。

高野街道は平安時代末から鎌倉時代初期に開かれたと言われており、京都府八幡市が起点の東高野街道、堺市堺区が起点の西高野街道、大阪市平野区が起点の中高野街道、大阪市天王寺区が起点の下高野街道と、起点を異にする4つの街道があります。



西高野街道について

4つの街道のうち、最も栄えたと言われるのが、西高野街道です。西高野街道は堺市堺区の大小路と大道筋の交差点を起点に(諸説あり)東に進み、堺区榎元町で竹内街道と分岐したのち、国道310号線に併行して南下し、大阪狭山市岩室で下高野街道と、河内長野市楠町で中高野街道と合流します。

その後、河内長野市本町では東高野街道と合流し、一本の道となり、紀見峠を越え橋本に至り高野山へと向かいます。

西高野街道は、江戸時代に民衆に参詣の風習が広まったことをきっかけに、高野山へ続く「信仰の道」として最盛期を迎えました。また、この頃、大阪は“天下の台所”と呼ばれ、商いの町として発展を続けていましたが、西高野街道は旧堺港から大阪へと物資を輸送する際の幹線道としても賑わいました。

堺市北区を通る西高野街道は決して長い区間ではありませんが、百舌鳥の梅北町・中百舌鳥町はこの道を中心に発展してきたと言われていいます。街道沿いには、戦国大名・筒井順慶にゆかりがある名家の筒井家や、南北朝時代の公卿・武将 北畠顕家にゆかりある寺院 本通寺など昔ながらの雰囲気を残した趣ある街並みが残存しています。



りていいし 里程碑

西高野街道を語るうえで欠かせないのが、街道の起点である堺区の大小路と高野山女人堂を結ぶ道中に、ほぼ1里(4km)間隔で建立されている「里程碑」(里道標石)の存在です。

これは街道沿いの栄栗木村(現大阪狭山市)の農民小左衛門と五兵衛が発起人となり、安政4年(1857年)にわずか8ヶ月あまりで建立したと言われています。

里程碑は設置された13基すべてが現存し、160年近い時を経た現在もなお、街道を行く人々の道標となっています。



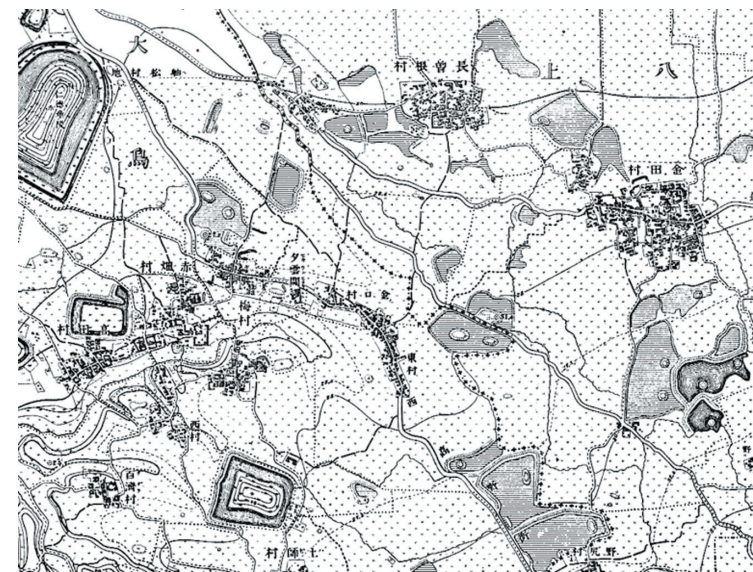
十三里石 (堺区榎元町)

百舌鳥地域のあゆみ

百舌鳥の歴史

「百舌鳥」の名は仁徳天皇陵古墳を代表とする「百舌鳥古墳群」により全国的にも有名です。百舌鳥古墳群は4世紀後半から造営が始まりました。古墳群の中に位置する土師遺跡や百舌鳥陵南遺跡からは多数の住居跡や土器類が発見され、百舌鳥川の左岸には埴輪の窯跡が発見されています。百舌鳥の地には古くから古墳の築造や、土器・埴輪の製作に携わる人々が住んでいて、百舌鳥野全体があたかも工業団地の様相を呈していたと推定されます。

鎌倉期より戦国期にかけては、現在の百舌鳥地域には「万代荘」と呼ばれた荘園が営まれていました。「万代荘」は近世の百舌鳥八ヶ村とほぼ重なり、大正8年(1919年)に成立した百舌鳥村の範囲とほぼ一致します。百舌鳥八ヶ村とは百舌鳥八幡宮の氏子村々を指し、近世の赤畑村・高田村・西村・百済村・梅村・東村・金口村・土師村にあたります。



明治18年の百舌鳥八ヶ村(明治18年陸軍陸地測量部2万分の1地形図)

堺市史によれば、明治時代以降、この万代荘を東西中に分割し、明治22年(1889年)に大鳥郡 東百舌鳥村・西百舌鳥村・中百舌鳥村が成立したとあります。特に西百舌鳥村は今日の百舌鳥赤畑町・百舌鳥夕雲町・百舌鳥本町・百舌鳥陵南町にあたり、百舌鳥古墳群の中核で、仁徳天皇陵古墳一帯を村域としました。その後、昭和13年(1938年)に五箇荘村、金岡村とともに堺市に合併され、現在に至っています。

“百舌鳥”という地名

「百舌鳥」の地名の由来は諸説あり、日本書紀には『仁徳天皇が、河内の石津原に出向いて陵の造営場所を決め、工事をはじめたところ、突然、野の中から鹿が走り出てきて、工事の人たちの中に飛びこんで倒れて死んだ。不審に思って調べてみると、鹿の耳から百舌鳥が飛び出し、鹿は耳の中を食い裂かれていた。このことから、この地は「百舌鳥耳原」と呼ばれるようになった』と記されています。

また、古事記には「毛須」「毛受」の字が記されていますが、平安時代より百舌鳥の地名が文書よりほとんど消えて、代わりに室町時代以降の地名はほとんど「万代」と記されています。「万代」を「もず」とは読みがたいですが、これは当時の百舌鳥地方の領主だった万代氏に由来するとされています。明治になって「百舌鳥」の字が復活しました。



地域の文化財

もず はちまんぐう 百舌鳥八幡宮 百舌鳥赤畑町 5-706

百舌鳥古墳群の中にあつて多くの古墳文化を垣間見ることが出来る地域に鎮座し、社伝によれば欽明天皇の時代（6世紀後期）の創建といわれ、付近の集落遺跡より祭祀用の土器類が発掘されています。

応神天皇を主神とし平安時代には都の守護神として朝廷の信仰の厚かった石清水八幡宮の和泉の国の別宮として栄え、



大楠（大阪府天然記念物）

江戸期には宮家や大坂城代の参拝など百舌鳥の歴史と多くの伝承を現在に伝えています。

社殿は江戸中期の建築で、社域約1万坪の中に社殿前の樹齢約800年の楠の巨木は府の天然記念物に指定されています。また旧暦8月15日の仲秋名月の日に近い土・日曜に催行される秋祭りに氏子の各町より奉納される勇壮華麗なふとん太鼓の宮入宮出は有名です。



まんだいじ 万代寺 百舌鳥赤畑町 5-705 真言宗犬鳴派



寺伝では天平元年（729年）に行基により開基。南北朝時代には七堂伽藍を有し、足利尊氏もこの寺を祈願寺とするなど泉州屈指の大寺院でした。

本尊は「無量寿如来」で、本堂右に七福神の一つで、除災招福で知られる「毘沙門天」を、左には百舌鳥の荒神さんとして親しまれている「三宝荒神」をそれぞれ祀っています。



毘沙門天

こうみょういん 光明院 百舌鳥赤畑町 5-732 高野山真言宗

天平元年（729年）に、光明皇后の発願により創建。その後、江戸時代前期の寛文9年（1669年）に、寿宝比丘尼智海が再興しました。

江戸時代中期に、大鳥神社神宮寺である神鳳寺の役寺となりますが、慶応4年の神仏分離令により、神鳳寺が廃寺となったため、「釈迦三尊像」や「十一面観音立像」（堺市指定有形文化財）をはじめ仏像や仏画類の多くが当寺に移され現在に至っています。

十一面観音立像（堺市指定有形文化財）

寺内にある地蔵堂には「頭守地蔵」が祀られ、頭痛、中風除けとして参詣されています。



しょうねんじ 正念寺 百舌鳥梅町 1-269 真宗大谷派

大阪に石山寺が栄えていた1550年代に建立されたとされています。本堂の欄間には「八藤紋」が彫られており、この紋のあるお寺は1550年代に建立されたと考えられています。

もと行基の開創と伝えられ、寛文3年（1663年）に乗真が中興して真宗に転じたとされています。

以前の本堂は江戸時代に焼失しましたが、天保4年（1833年）に中深井の大工永嶋九兵衛により再建されました。



阿弥陀如来立像



ほんつうじ 本通寺 百舌鳥梅北町 5-314 真宗大谷派



像の台座には「山本若狭大掾印慶子」という仏師の銘があります。

真宗大谷派に属し、常通寺（堺区寺地町西）、光浄寺（北区百舌鳥本町）と共に南北朝時代の公卿・武将北畠顕家にゆかりがある寺です。

本堂は光浄寺と共通する簡素な住宅風仏道で、建立年代を示す史料はありませんが、喚鐘には安永9年（1780年）の銘があり、また山門は天明年間（1781～89年）に建てられたものと伝えられます。御本尊の「阿弥陀如来立像の台座」の台座には



阿弥陀如来立像

こうじょうじ 光浄寺 百舌鳥本町 2-310 真宗大谷派

本通寺同様に北畠顕家にゆかりがあり、本通寺住職の賢乗が17世紀中頃に開基したと伝わります。御本尊の「阿弥陀如来立像」は延宝5年（1677年）に本山から授受しました。

本堂は元禄6年（1693年）に建立され、古式な真宗本堂の平面を持ち、簡素な住宅風の外観から道場形式の系譜を色濃く伝えていきます。建立年代が明らかであり、古形式をよく伝えていることは貴重で、江戸中期の在郷仏堂を知る上でも重要な遺構と言えます。



阿弥陀如来立像



本堂

がんしょうじ 願正寺 中百舌鳥町 6-860 真宗大谷派

寺号が許されたのが天和2年（1682年）で、当時は天台宗で、元禄2年（1689年）本山より木仏安置御免となり、これにより真宗大谷派となりました。

現在の本堂は平成16年（2004年）に再建され、内陣を仕切る欄間は唐獅子牡丹の構図になっており、天台宗の名残を再建したものです。



本堂

宗の名残を再建したものです。

御本尊阿弥陀仏の左側に「聖徳太子御影」及び「七高僧御影」が右側には「親鸞上人御影」が掛けられています。また、山門側の黒松は堺市の指定保存樹木となっています。



ほっけじ 法華寺 百舌鳥梅町 1-167 日蓮宗



本堂

もと真言宗寺院でしたが、元禄時代に日蓮宗に転じたと伝えられ、本堂、観音堂、鬼子母神堂、山門が立ち並ぶ境内は落ち着いた歴史的雰囲気のある空間です。

本堂に祀られる「日蓮上人座像」は、台座裏の銘文から、永正11年（1514年）に「實藏房日情」という僧が関係して制作されたことがわかります。制作年代がわかる室町時代の作例として大変貴重です。



日蓮上人座像

また鬼子母神堂には子どもの手を引く姿の「鬼子母神像」が祀られており、陶製と思われる下地に鮮やかな彩色が施されています。

えんつうじ 圓通寺 百舌鳥赤畑町 5-611 高野山真言宗

赤畑町のバス停から東に50mほどのところにある小さな祠のお寺で、一説には奈良時代に行基が開いたともあり、戦前は数百坪を有し本堂もあったようです。



観音菩薩立像 (重要文化財)

昭和31年頃に大学の調査が入った際には既に伽藍はほとんどありませんでしたが、わずかに残った庫裏に「観音菩薩立像」が祀られているのが発見されました。

発見された仏像はジャクダンなどの香木から作られた日本では最古級の檀像彫刻です。平成2年に国の重要文化財に指定され、現在は堺市博物館にて所蔵されています。



たかばやしけ 高林家住宅 (重要文化財) 百舌鳥赤畑町

御廟山古墳の南側にあり、建物と山林を含めた敷地全体が、江戸時代・近畿地方の大規模な庄屋屋敷の構えを良く残しています。

主屋は切妻造の茅葺屋根で、この屋根の形は「大和棟」ともいわれ、大阪府と奈良県北部にかけては数多く見られた特徴的な民家の姿です。

昭和52~54年の保存修理工事により、建築当初の天正年間（1573~1592年）には屋根形式が入母屋造でしたが、後の増改築により現在の姿は18世紀の終わり頃に完成したことがわかりました。

※現在も居宅として利用されていますので、外観からの見学をお願いします。



つついけ 筒井家住宅 中百舌鳥町



筒井家は戦国大名として名高い筒井順慶にゆかりがある名家です。茶も石州の流れを汲み、堺の豪商として夕雲開の開拓者で庄屋でもあり、この地には江戸時代に屋敷を構えたものと思われます。門前の大楠は樹齢800~1000年とされ、府指定の天然記念物であるとともに、堺市指定の保存樹林です。

また、筒井家の西方には御廟表塚古墳があり、前方部を西に向けた前方後円墳で、帆立貝形古墳と呼ばれるものです。

※現在も居宅として利用されていますので、外観からの見学をお願いします。

これえだちかあり 旧是枝近有邸 (登録有形文化財) 百舌鳥梅北町

ヨーロッパの古城を思わせるようなこの建物は、当院の医師、故是枝近有氏が自ら設計した自邸兼診療所で、昭和9年（1934年）に完成しました。建築当初は、この付近には多くのため池があり、この洋館も、湘賀池というため池に突き出た半島状の場所に、湖畔に建つ城をイメージして設計されました。

外観から眺めると、石造にも見えますが、実は木造。外壁は、寒水洗い出で、石造風に仕上げられています。近有氏の患者の一人であった、宮大工の村田元蔵によって建築されました。

※現在も居宅として利用されていますので、外観からの見学をお願いします。



百舌鳥古墳群マップ (いたすけ古墳・御廟山古墳周辺)



堺・百舌鳥野。ここには古代に造営された古墳が、1600年の時を経て今も残っています。
古墳の一つ一つがかつての日本の姿を今に伝える貴重な歴史遺産です。この探訪マップをご参考に、実際に雄大な古墳を訪れてみてはいかがでしょうか。